

『ゾウの時間 ネズミの時間』

本川達雄著／中央公論社

言わずと知れた中公新書のロングセラー『ゾウの時間ネズミの時間』。この本との出会いは今から〇年前、私が高校受験を終えた直後であった。当時通っていた塾の理科の先生（工学部に通っていた大学院生で、ちょっとイケメンだった）に、高校合格おめでとう！と手渡された本だった。

当時、小説ばかりを読んでいた中学生の私には、新書は大人が読む本というイメージがあり、黄色いシンプルな表紙の難しそうな本を面白いから読んでみてと薦めてくる先生は“クールで知的な大人”という感じがしてドキドキしたのを覚えている。

家に帰りベッドの中でその本を開いてみると・・・・・・・・面白い。

私が持っていた“時間”の感覚がどんどん崩れていく。1秒、2秒ではなく心臓の鼓動を基準にすると、大きなゾウも小さなネズミも、みんな同じだけの寿命を持っているというのだ。人間を基準に作った時間は人間だけのもので、ゾウにはゾウの時間、ネズミにはネズミの時間があるのだ。私の思っている時間は、この世界の誰もが共通のものではないのだ。

私はすっかり、そこに広がる理系ワールドに嵌ってしまった。たった一つの“気づき”で、世の中の見え方がガラッと変わってしまうのだ。

なにこれ、研究者ってこんな面白いことを勉強しているんだ！

理科の先生が生き生きとして楽しそうな理由が、この本を読んで分かった気がした。

もし私がこの本に出合わなかったら、もし先生がイケメンじゃなかったら、私はこうやって大学の先生をやっていることはなかったかもしれない。

執筆者紹介

吉武裕美子

機械創造工学専攻助教。専門領域は、ソフトマテリアルの表面物性、流体力学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『ゾウの時間 ネズミの時間』 本川達雄著 中央公論社（中公新書）1992年 734円

[ブックガイド目次へ](#)